

世界の人びとのための JICA 基金活用事業 終了時活動報告書

提出日： 2025年11月16日

1. 案件の概要	
(1) 案件名	バングラデシュ国ガジプールの学校（中等教育）における貧困層生徒職業訓練と、それを持続可能にするための収益化事業－2年次
(2) 実施団体名	NPO法人YOU&MEファミリー
(3) 団体所在地	埼玉県草加市草加
(4) 団体ウェブサイト	www.youandmebangladesh.org
(5) 実施期間	2024年11月15日～2025年11月14日
(6) 実施国	バングラデシュ
(7) 活動地域	ガジプール県 バゲル バザール地域
2. 活動概要	
(1) 活動の背景	
<p>バングラデシュでは児童婚が根深い社会的問題である。本校にも2018年強制的に児童婚をさせられた女子生徒がいた。これを受け、貧困層生徒の社会的経済的自立を目指し、2020年より職業訓練事業（パソコンクラス・洋裁クラス）を発足した。毎日16～17時、パソコンクラスでは3か月で6名、洋裁クラスでは毎月6名を対象としての訓練は、生徒や保護者からも好評を得ており、過去4年間の受講生は定員6名が毎回満員となっている。2024年には、卒業生の洋裁クラス修了生には地域縫製工場のリーダー格として活躍する者が出て、また洋裁店舗を構える準備をしている者もいる。パソコンクラスからは地元企業の事務職等の就職が見込まれるが、それらに就いた者はまだなく、卒業生は機会を待っている。いずれにせよ、両訓練は将来の自立につながるものとして生徒に希望を与えている。</p> <p>2023年、この職業訓練を持続可能なものとするために、両クラスで収益化事業を開始した。すなわちパソコンクラスでは夜間大人クラス開講による開講頻度増加と受講料の徴収、洋裁クラブでは大人女性用民族衣装サロワカミューズと学校制服の製作と販売である。本収益化事業は現地スタッフが主体となっており、日本スタッフ1名は相談役、日本人専門家1名はファシリテーターとして関わっている。5年計画で策定しており、4年目より黒字になり5年間で安定した黒字経営に展開する見込である。2024年度は同事業2年次にあたるが、この流れを止めることなく、前年度の成果を活かしさらに積極的に展開したい。</p>	
(2) 活動の目標	
<p>当法人の現地支援の目指すべき姿は、バングラデシュ現地の貧困層の子どもたちが将来において社会的経済的に自立した生活を営むことである。そのためにパソコン・洋裁職業訓練を実施しているが、生徒たちは訓練修了後、パソコンでは一般企業や近隣縫製工場で事務職として就業、洋裁では同様の近隣縫製工場でリーダー格にて就業したり、自前の店舗の開業が可能となる。</p> <p>本事業では、この職業訓練クラスを充実させると共に、収益化することによってこのクラスを日本からの援助だけに頼らずに現地で自立して運営できる状態にしていくことが、最終目的である。2024年度は2年次にあたるが、この良い流れを止めることなく、さらに改善し発展させたい。また1年次後半にできた若い新ビジネス担当スタッフ（主担当1名、販売担当2名）を中心にした新体制を、さらに育成したい。</p>	
3. 活動の結果	
(1) 実施した内容	
<p>(1) PC事業 専門講師1名にて対応 PC担当教師4名で補助</p> <ul style="list-style-type: none">・職業訓練生徒クラス（16時～17時）1セッション3か月×1年3セッション、毎セッション生徒6名参加・収益化のための夜間大人クラス（19時～20時）生徒クラスと同様 <p>(2) 洋裁事業 専門講師1名、担当教師4名、ビジネススタッフ1名にて対応</p> <ul style="list-style-type: none">・職業訓練生徒クラス（16時～17時）毎月6名参加、専門講師判断で修了。・収益化のための製作販売 販売は専門講師、担当教師が行った。 <p>女性用民族衣装サロワカミューズ（3点セット、2点セット）、学校生徒用制服（高学年女子用、低学年女子用、男子用シャツ、男子用ズボン）の製作及び販売、またその他を販売した。 2025年5月学校敷地内に新店舗を開設。現在は上記品販売が中心だが、ファッション小物を多くしたい。</p> <p>(3) 現地組織づくり</p> <p>1年次（2023年度）は専門講師2名を招きつつ、本校教師グループが本事業を担っていたが、彼らの本業は教育活動であるため負担も増えた。しかし2年次（2024年度）では、その状況を見た若い卒業生男子1名女子1名のビジネス専門スタッフへの立候補があり、この若いビジネススタッフを教師グループ全員であたっていく姿勢をとった。途中で男子スタッフが家庭事情で離職したが、残った女子スタッフを教師グループがうまくサポートする組織ができてきた。</p>	
(2) 実施結果	

(1) PC事業

- ・職業訓練生徒クラス 受講生徒6人×3セッション=18名
- ・収益化のための夜間大人クラス 年間3名 大人授業料合計9,000TK(達成率25%)

(2) 洋裁事業

- ・職業訓練生徒クラス 受講生徒のべ72名
- ・収益化のための年間製作販売 販売目標数671 販売結果数557(達成率83%) 販売目標金額813,650TK 販売結果金額766,565TK(達成率94.2%)

(3) 組織づくり

この収益化事業の最初から、教師グループ15名全員が協力して取り組んでいる。当初男子1名女子2名だったビジネススタッフのうち男子が家庭事情により離職したが、そのあとに女子スタッフ1名を中心に教師グループが支える形を取り、組織が強固になった。12月、5月、8月の3回は日本スタッフが現地渡航し助言ファシリテートを行い、それ以外はZOOM遠隔会議を行って進捗状況を把握し助言できた。

(3) 事業を実施して得られた教訓など

(1) PC事業

- ・職業訓練クラス

パソコンクラス修了生は、卒業生のうち8割は上級学校に進級し、1割は近所の縫製工場に就職、1割は家事手伝いをしている。まだ開始して数年で、技術を活かして「全員が目指す方向に具体的に進んでいる」とは断定できない現状ではあるが、全員が近い将来にパソコン技術を活かして職を得ようと機会を探しており、明るい展望を持っている。修了生の中には故郷に戻り教師としてパソコンを使い仕事をする者もあり、また現在他のパソコン教室で上級技術を習得中の者もあり、他生徒にも希望を与えている。教師グループも将来の進路に向けて励ましている

・夜間大人クラス 大人たちもパソコンを学びたい気持ちは強いが、中年層は仕事や家事に慌ただしく体力的にも厳しいことから、若い世代中心にPRしている。しかし2024年8月の政変事件以来、地域が混乱し大人クラスはあまり集客できていない。よってパソコン大人クラスのPRに工夫をしつつ、洋裁クラスとの2事業合計で収益化事業目標到達を考え修正した。また2025年8月に近隣のコンピューターセンターを訪問し、そこから政府認定修了証の発行をしてもらえるようルートを作った。これを活かしてさらにPRしたい。

(2) 洋裁事業 ・職業訓練クラス

洋裁修了生は、卒業生のうち1割は上級学校に進級し、7割は近所の縫製工場に就職、2割は家事手伝いをしている。近隣工場勤務者はまだ年齢的に若いのでリーダー的役割ではないが、自信をもって就労している。家事手伝い者も、自宅で縫製技術を活かして作業を続け、自分で店を開業する夢をもっている。上級進級者は、将来この学校の教師になり洋裁クラブも担当したいと夢をもっている。教師グループも励ましている。・収益化のための製作販売 洋裁室にて各種サロワカミユース販売、学校制服製作販売をしてきた。製作は主に専門講師、他担当教師と生徒が補助。販売は全スタッフが行っている。サロワカミユース販売が順調なので、3ピース、2ピースの他に「その他」部門も取り入れている。2025年5月、学校敷地内に店舗を構えることができた。これまでのサロワカミユース、学校制服販売と共にファッション小物を中心に販売していく。今年度は卒業生営業スタッフ1名を迎え中心となり、教師グループが補佐する形態となり軌道に乗ってきている。販売数、売上高も伸びている。

(3) 組織づくり

もともとビジネススタッフとして集められたチームでなく教師だった集団が、日本ビジネス専門スタッフの綿密なファシリテートのもと、バックキャスティング、シエアドリーダーシップ、アクションプランシートなどのビジネスの基本的考え方を学び、ビジネスの視点を持ったチームへと成長してきた。そしてこのビジネス的視点は、実は学校経営や個人の生き方にも通じることがあると現地スタッフが理解して成長してきている。卒業生のビジネススタッフを教師がサポートするという、学校として理想的な形となり、今後が楽しみである。

(4) 地域や家族の変化 2020年より職業訓練クラスを開始したが、地域は歓迎し期待して見ている。今までこうしたクラスがなかったこの地域で、この職業訓練があるからこの学校に転校してきた生徒もあり、また家族の中には母親自身も洋裁技術を習得したいと意欲を持ち、実際に修了した女性もいる。パソコンについては、特に政権崩落の2024年8月以来、各家庭が困窮していることから、少々ハードルが高くなっているが、今後需要は多いと思われる。また、この職業訓練クラスを修了した卒業生が社会に出て従来より高い給与を得て生活するものも現れ、家族の生活も落ち着いてきている。そのような家庭をますます増やしたい。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針

職業訓練クラスは、このまま順調に継続したい。将来には修了生が卒業後にパソコン技術や洋裁技術を活かして希望の職業につく事を願い、そのためのフォローアップをするつもりだ。そしてこの職業訓練クラス受講によって従来より高い給与を得て、本人や家族の収入や生活レベルが向上していくことを目指す。また、この職業訓練クラスを順調に運営するために収益化事業を行うわけだが、この5か年計画の目標を達成した際には、職業訓練クラスと収益化事業をモデルケースとして、地域の他の学校や教育施設に紹介し広め、地域全体の生活向上を目指したい。さらに本校は学校教育運営が主体であるが、学校本体も日本や他からの援助から離れて自立した運営をできるように、さらに収益化事業を拡大していきたい。

4. 活動中のエピソードなど

(1) 生徒・保護者・教師インタビュー

A君(生徒)・・・ワード、エクセルを学び、とても楽しい。これからの時代、パソコンは必須なので、がんばってマスターしたい。
 Bさん(生徒)・・・家にパソコンはないので、学校で学べて嬉しい。将来はデザインの仕事につきたい。
 Cさん(生徒)・・・洋裁を習ってみたかったので参加しています。将来は、自分の着る服を、自分で作りたい。できれば自分の店を持ちたい。
 Dさん(生徒)・・・将来、縫製工場で働く時に、技術を知っていたら有利になるから参加しました。
 Eさん(保護者)・・・娘にはこの学校の洋裁クラスに通わせたいです。機会あれば自分も習いたいです。
 Fさん(教師)・・・この職業訓練は生徒のためにとても良いので継続したい。そのためにも収益化事業は必要である。

(2) その他の波及効果

①地域保護者の協力 収益化事業開始当初は、なぜ学校でビジネスをするのかと懐疑的意見が多く聞かれたが、あきらめずに職業訓練クラスの意義をそれを支える収益化事業について説明を続けるうちに、保護者が理解を示してくれるようになり、それが地域住民にも広まってきている。

②卒業生による募金活動 この収益化事業が外国からの支援でなく自立して学校活動をしていこうという趣旨であったことから、卒業生グループが、自分たちも学校のために協力しようと、募金箱寄付活動を始めた。これが在学生徒、保護者にも広まってきている。

(3) その他エピソード 今年度、本校のある生徒が保護者の事情で他校に転校したところ、画一的な授業や指導に驚き、本校の教師の愛ある指導、職業訓練クラスを含めた手厚いカリキュラムが素晴らしいことに改めて気づいたため、生徒の強い希望で本校に戻ってきた、ということを生徒の母親から直接聞くことができた。

5. JICA基金活用事業を実施したことで団体にとって良かった点・成長に繋がった点

これまでも他団体の助成事業の援助を得て活動をしてきましたが、JICA基金活用事業では、他団体と比較しても「顔の見えるご指導」がいただけたことが、一番の良かった点です。この1年間で3回現地に渡航しましたが、毎回の渡航時にはJICAダッカ事務所を訪問し、担当スタッフの方々に現地ならではの貴重な情報やご助言をいただきました。また帰国後、毎回JICA東京事務所の担当スタッフの方々と面談していただき、現地の報告をした際に、親身に聞いてくださり今後の示唆をいただきました。そのように、国際協力のプロであるJICAスタッフの皆様に、頻繁に面会いただけて親切にご指導いただけたことが、何より一番の成長につながった点でした。心より感謝申し上げます。

6. 活動の写真



コンピューター職業訓練クラス



洋裁職業訓練クラス



全教師ビジネスミーティング



ビジネススタッフミーティング



学校敷地内新ショップ



JICAダッカ事務所訪問